

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成22年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣の有料老人ホームとの交流も含め、合同でのレクリエーションを行い、花見などを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoicho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100861&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年7月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関との緊密な連携により、医療依存度の高い利用者が安心して過ごせるホームです。地域とのより良い関係形成に積極的に努めており、町内会との連携強化に取り組むだけでなく、近隣商店や喫茶店、飲食店と馴染みの関係を作るなど、利用者の生活に変化や楽しさを提供しています。季節毎の行事や定期ボランティアの導入(ダンス教室・ヨガ教室)、多彩なレクリエーションを実施して併設有料老人ホームやユニット間との交流も図っています。「家族になろう」という理念の下、管理者・職員が丸となって利用者本位の暮らし、安全と安心・彩りのある暮らしの実現に取り組んでいるホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族になろうという理念を基に、信頼されるような関係を作る為、日々の業務に努めている。	管理者・職員は日々のケアやミーティング時に、日常的に理念に立ち返りながら、理念に沿ったケア実践となっているかどうかを確認し、より良いケアサービスに繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すぐ隣にあるコンビニなどへ利用者と一緒に買い物に行くなどし、理解を得られている。	散歩時には近隣住民の方々と挨拶を交わし、コンビニや喫茶店、飲食店の利用が日常的に行われています。ホーム行事には住民の方々の参加も得られ、交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの人と毎月交流をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定められた通り行い、サービスの向上に活かしている。	家族・行政・町内会役員を含めた運営推進会議を2ヵ月毎に開催し、運営状況や防災体制、外部評価への取り組み等について意見交換を行い、サービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその他行事等ある時などに、内容を伝え、状況に応じて協力関係が築けている。	行政担当者に運営推進会議の議事録を提出して情報提供を図ると共に、運営上の疑問や相談事については、頻繁に連絡を取り、助言が受けられるよう協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の都合によるものは無く、家族の同意を得て本人をまもる為に、一部拘束を行う場合がある。	交通量の多い幹線道路に面しているため、利用者・家族の同意を得て施錠する場合がありますが、毎月一度身体拘束防止に関する委員会を開催し、身体拘束の弊害を職員全員が十分認識しています。利用者が外出を希望する場合には、職員が支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度の研修会でほとんどの職員が集まり、そういった場での勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を入居時に説明し、理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行っている。	運営推進会議や家族来訪時に意見、要望の聴取に努め、必要に応じて運営に反映させています。今年度から家族アンケートを実施し、家族の意見・要望の集約に努めています。	家族アンケートをより有効に活用するために、さらに一歩進めて家族が要望を表出しやすい質問内容の検討、アンケートの定期的な実施を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修会を月に一度開き、話せる環境を作っている。	毎月、全員参加の会議を行い、職員が自由に意見を述べる機会を設けています。代表者・管理者はそこで出された意見や気づきを運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国からの支給など、すぐに手続きをして職員に給付されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会を設けており、そこでリスクマネジメントやケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の有料老人ホームと交流をしている。（勉強会などを通して行っている） また、中央区のグループホームの研修会などへも参加し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が困ったこと、要望がある時はスタッフは必ず耳を傾けており、安心を確保する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様より要望があれば、必ず耳を傾けており、スタッフ間でも話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際にアセスメントをとり、暫定のケアを立てている。その時の状態に応じて、おむつサービスなど取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活上の仕事（食器洗いや調理など）を行い、教えていただくという姿勢でケアに当たっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来ていただいており、時に家族にも協力していただき、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	好きな歌手のコンサートに行くなどの支援を行っている。また、積極的に友人の来訪なども受け付けている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、希望の場所への外出支援や友人の来訪を積極的に受け入れ、これまでの楽しみ事や友人関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、同じ趣味の方を誘うなどして、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を大切にし、できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族などに本人の事をアセスメントし、QOL向上に努めている。	生活歴やこれまでの暮らし方を把握した上で、日々、コミュニケーションを図りながら、利用者の思いを汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で、ひとりひとりの過ごし方が把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議を開き、話し合いを行っている。モニタリングも定期的に行っている。	利用者・家族の意向を尊重しながら、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。3ヵ月毎のモニタリングや状態変化に応じて計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に1日の様子やケアプランに対しての情報を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応法を1回1回スタッフ間で確認し、話し合いの上行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられている。	利用者・家族の希望を優先し、かかりつけ医への受診を支援すると共に、24時間対応の協力医療機関による日常の健康管理等、適切な医療を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常にこまめな報告をし、適切な処置が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いへ積極的に行き、病院側との関係作りを行っている。また、書面や口頭で本人の状態等の情報交換を行い、適切な医療を受けられるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、御家族様・看護師・医師・ケアマネージャー・と話し合いの機会を持ち説明・相談ができる状態を作っている。	かかりつけ医の判断に基づき、利用者、家族、関係職員と話し合う機会を設け、方針の共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会で救急時の対応方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を通じ、学ぶ機会を取っている。また、近隣に協力を得られるよう、呼びかけも行っている。	消防署や通報装置業者の指導のもと、年2回避難訓練を実施しています。近隣のコンビニには避難場所として協力依頼をしています。災害時備蓄品も確保しています。	5月開催の運営推進会議で、町内会消防団員が次回の避難訓練に参加予定となっています。近隣住民の方々との連携強化を図るためにも、実現を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを一番に考え、言葉掛けをおこなっている。	利用者の人格を尊重した対応がされ、名前の呼び方や排泄誘導時の声かけにも配慮がみられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行い、自己決定できる声掛けをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調やペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをし、介助が必要であれば行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目や味などに気をつけて提供している。	職員は準備や後片付け、献立表の作成を利用者と共に行ったり、調理や味付け方法を尋ねる等、利用者一人ひとりの能力を活かした支援に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の目標を作り、栄養などに気をつけて出来ている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、必ず声掛けをして、口腔ケアをしていただいている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを記録に残し、対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録しています。それぞれに応じた声かけや見守り、時間誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本操の声掛けを行い、対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調にも合わせて、入浴していただいている。	週2回を目途に、利用者の希望や時間帯に応じてゆっくり入浴できるように支援しています。利用者の体調に応じて、足浴や清拭で保清に努める場合もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れるように、眠る為の眠れる空間を作っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用・薬品名を記入した用紙があり、スタッフ誰もが把握できる環境を整えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しずつ、生活歴を引き出しコミュニケーションをとっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出のレクリエーションにより、普段行く事ができない所へも行けている。	一人ひとりの希望や体調に応じて、散歩や買い物に日常的に出かけられるよう支援しています。また、外食や近隣喫茶店の利用は毎月恒例の行事となっており、利用者の楽しみになっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で財布を持ち、管理している方は、支障がない状態のうちは継続して自己管理をしていただき、サポートを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの特徴をつかみ、電話対応などを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除を行い、清潔に保っている。季節により湿度の調整をしており、安心して過ごしていただいている。	バリアフリーの共用空間は各ユニットとも居心地の良い色調で統一されています。日射しを遮るカーテン、温・湿度にも配慮がみられます。合同レクリエーションで利用する1階スペースは高級感のあるインテリアで利用者の気分転換の場となっています。	職員は毎日清掃し、共用空間の清潔保持に努めていますが、浴室・トイレの空気にやや淀みがみられます。換気や点検、こまめな清掃を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が席の近くに席の配置に気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきて使っていただいている。	利用者の好みの生活用品や使い慣れた家具、仏壇、思い出の品などが自由に持ち込まれ、利用者の希望に沿って配置された居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けを行い、ADLを低下させないよう、できることを行ってもらっている。		